



2022 年 2 月 28 日
飯野海運株式会社

Equinor ASA 社向け新造 VLGC が竣工 ～当社初の LPG 2 元燃料主機関搭載船～

2 月 28 日、当社初の LPG2 元燃料主機関搭載 VLGC（Very Large Gas Carrier：大型 LPG 外航船）「CALLUNA GAS」（以下「本船」）が川崎重工業株式会社坂出工場で竣工しました。本船は Equinor ASA 社*¹（以下「Equinor 社」）向けの定期用船契約に従事します。

当社は環境への配慮を経営理念として掲げ、中期経営計画「Be Unique and Innovative.: The Next Stage 2030 年に向けて」においてもサステナビリティへの取組みを重点強化策の一つとしています。その具体的な施策として温室効果ガスの排出を抑制する次世代燃料への投資を進めており、本船は当社にとって初の LPG 2 元燃料主機関搭載船となります。

本船は上甲板に LPG タンクを搭載しており、貨物とは別に燃料用 LPG を積載することで、従来の燃料油に加えて LPG を燃料として使用することが可能となります。LPG を燃料とすることで、二酸化炭素（CO₂）、硫黄酸化物（SO_x）、窒素酸化物（NO_x）、粒子状物質（PM）の排出量を従来の燃料油と比較して大幅に削減可能で、2020 年 1 月に全海域で強化された SO_x 排出規制*²への対応に加え、新造船の CO₂ 排出量規制である EEDI*³についても 2022 年以降の建造契約船から適用されるフェーズ 3 に先行対応しています。また、本船は主機関ならびに発電機関に NO_x 排出量を抑制するシステムを搭載することで、NO_x 排出規制*⁴にも対応するなど環境負荷が小さくなっています。

Equinor 社との新たな定期用船契約に環境配慮型の本新鋭船を投入することで同社との関係を強化するとともに、今後も国内外の重要顧客とのパートナーシップを強化していきます。

当社は国内外の大手荷主との中長期契約を礎として、1963 年から半世紀以上にわたり LPG をはじめとする各種液化ガス輸送に従事しており、昨年 10 月にはアンモニア輸送への再参入を決定しました。長年の運航管理で培ってきた豊富な経験と技術力を生かし、安定輸送・安全運航に努めるとともに、環境負荷を低減する技術を積極的に導入し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



<CALLUNA GAS の概要>

貨物積載容量：84,174 m³

総 ト ン 数：49,943 トン

全 長：229.90 m

全 幅：37.20 m

建 造 会 社：川崎重工業株式会社

船 籍：パナマ



*¹Equinor ASA 社について：

ノルウェー・スタヴァンゲルに本社を置く北欧最大のエネルギー企業。世界 30 か国以上に拠点を持ち、石油・ガスに加えて洋上風力等の再生可能エネルギー開発に積極的に取り組む総合エネルギー企業です。

*² SO_x 排出規制について：

船舶からの排出についてはIMOにより、2015年1月から欧米の排出規制海域（ECA）において、燃料中硫黄分0.1%以下のSO_x排出規制が実施されています。また、2020年1月からはその他の世界の全海域を航行する船舶に対し、硫黄分が0.5%以下の燃料を使用するか、排ガス中からのSO_xを同等に低減する代替装置を使用することが義務付けられています。

*³ EEDI（Energy Efficiency Design Index）規制について：

1トンの貨物を1マイル運ぶ際に排出されるCO₂のグラム数として定義されるエネルギー効率設計指標（EEDI）を用いて新造船の省エネ性能の規制値への適合を強制する国際規制。EEDI規制値は建造契約日と引渡日に応じて段階的に強化されます。大型LPG運搬船やLNG（液化天然ガス）運搬船など一部の船種では、2022年以降の建造契約船からフェーズ3（基準値から30%のCO₂削減）が要求されます。

*⁴ NO_x 排出規制について：

船舶からの排出についてはIMOが規制を行い、2016年から実施されている3次規制では、欧米の排出規制海域（ECA）を指定海域として限定し、一次規制値からさらに80%の削減が規定されています。

本件に関する問い合わせ先

ガス船部 LPG 船課 TEL：03-6273-3098

問い合わせフォーム：<https://www.iino.co.jp/kaiun/contact/form.php>

以上